

厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）  
分担研究報告書

3. 調査対象施設の概要と施術環境

研究分担者 大澤 元毅 国立保健医療科学院 主任研究官  
研究代表者 阪東美智子 国立保健医療科学院 主任研究官

研究要旨

高齢者の心身の特性を踏まえた出張理容・出張美容の環境整備、施術方法について提案・指導を行っていくため、その現状と課題を明らかにすることを目的に、関東地方に実在する特別養護老人ホーム、老人保健施設および有料老人ホーム、計6施設8建物10空間を対象に実態調査を実施した。本稿では、調査対象施設の概要と施術の建築環境・仕様に関する資料を取りまとめ、平面計画・寸法・仕上げ等について考察を加えた。

設計時から「理美容室」として企画された空間のほか、清掃や洗髪の利便から脱衣室を使用している場合や明るい廊下で施術している場合などが見られた。出張理美容を受け入れる施設側のハード・ソフトが整備されていない場合も多く、建築環境の観点から改善の余地が指摘された。本来用途以外の室を使用している場合の課題と要件についても検討した。

A. 研究目的

近年、高齢化の進展に伴い整容を含めた需要の拡大も顕著で、衛生環境に影響を及ぼす実施形態や施術環境の多様化も進んでいる。高齢者の心身の特性を踏まえた環境整備、施術方法の提案・指導を行っていくことが不可欠である。

本研究は、その現状と課題を明らかにし、建築・設備計画およびその衛生的運用の改善に資する事項の整備を図ろうとするものである。

B. 研究方法

本調査は、関東地方に立地する特別養護老人ホーム、老人保健施設および有料老人ホーム、6施設8建物10空間を対象に2015年1月から2月にかけての冬期に実施された。対象とした施設や理美容師は、本研究の目的に理解を得

られた全国理容生活衛生同業組合連合会と全日本美容業生活衛生同業組合連合会の協力を得て紹介を受けるコンビニエンスサンプリングの方法をとった。施設の選定にあたっては、多様な施術環境の実態を把握するために、建物内に理美容室がない施設を優先的に選択した。

なお、あわせて延べ86人の高齢者を対象に実施した、施術空間の温熱・空気・照度などに係る【物理環境評価】、理容・美容を施された高齢者の血圧・心拍・血中酸素濃度・唾液アミラーゼに係る【生理量測定】、およびそれらの【因子分析】の詳細については、第4章以下の別報で取り扱う。

対象施設の種別、事業開始年、定員、建物構造・規模等の概要を表1に示す。表最右列は、施設を訪問した際に採寸し作成した、施術が行

われた空間の平面図の名称である(別添資料参照)。同一施設内で施術が複数場所で行われている事例や居室からの移動が難しい利用者のために寝台上で実施する事例を含んでいる。

本研究は、平面図資料と現場での作業観察および職員からの聞き取りに基づき、一般理美容所の基準などを参照しながら、出張理美容の円滑かつ衛生的な実施に係る建物設計上の特性と課題について検討した。調査に際して用いた質問紙は資料編に添付した。

#### (倫理面への配慮)

本研究では、理容・美容の施術を受けた施設入居者、施術にあたった理容師・美容師および施設職員等を対象にインタビューを行うとともに、施設入居者からは生理データの提供を受けた。調査は、関係者や対象者にインフォームドコンセントを行ったうえで、対象者の心身に特段の負担を与えないよう配慮するとともに、すべてのデータは、対象施設・者を匿名化して記録・分析を行った。調査実施にあたり、国立保健医療科学院研究倫理審査委員会の承認(NIPH-IBRA#12088)を受けている。

## C. 研究結果

### C.1 施設種別および事業開始年

調査対象施設の種別は、施設1, 4, 6が特別養護老人ホーム、施設3が老人保健施設、施設2, 5が有料老人ホームと様々であるが、出張理美容の提供・利用形態や施術環境に特段の影響は見られない。なお、施設5および6では、同一敷地内に二つの施設が立地しているため枝番を付した。

事業開始時期は、最も古い施設6-2が1970年、次いで施設6-1が1985年で、築後45年と30年を経過している。一方、他の5施設のうち施設1, 2, 3, 5は何れも2010年以降

の建築で、築後5年未満と新しい。

### C.2 建物構造および階数・床面積・定員

建物構造は施設2のみが鉄骨造のほかは、何れもRC造(鉄筋コンクリート造)である。避難や移動に支障を生じやすく、体力や免疫力に不安のある高齢者のために、階数も概ね低めで、耐震性・耐火性や断熱気密・温熱環境にすぐれたRC造が採用されやすいと考えられる。既成市街地に立地する施設5および6には地下階が設けられ、土地の有効利用が図られている。

定員は地域密着型の施設1が20名と最小、施設4の100名が最大である。定員一名あたりの延べ床面積は特別養護老人ホームでは施設1の100㎡弱から施設6の約50㎡まで、老人保健施設は約60㎡、有料老人ホームでは35から50㎡と幅広く分布している。

### C.3 施術空間の特性と課題

(表2-A、表2-Bを参照)

#### (1) 本来用途と配置

今回の調査では、対象施設の選定にあたって、建物内に専用の理美容室が設置されていない施設を優先したため、建築設計時から理美容室としての利用を想定し、室名に記されているのは施設3と4のみであった。(写真1)

その他の本来用途としては脱衣室(写真2)を使用している施設が二か所あるほか、廊下を待合や施術場所として使用している施設(写真3)も見られる。脱衣室ではパーマや白髪染め・カラーの際に必要な洗髪をポータブルの簡易洗髪器(写真4)を用いて隣り合う浴室で行うことが可能であり、洗面台や換気設備が完備しているという合理性も感じられる。今回の調査では脱衣室の中に洗髪洗面器を設置している例があった(写真5)が、施術者からはこのような設備があれば洗髪が容易になり施術に

便利であるとの意見があった。しかし、一般に照明等の設備と環境は不十分である(照度については別報参照)。

一方、廊下での施術(写真6)は特殊な場合を除いて本来機能である通行の妨げとなる状況が生じ易い上、車椅子・台車などの通過交通によって毛髪やほこりが飛散するなどのおそれがある。また、廊下での施術は一般に窓際で行われるため自然光活用が期待できるが、一方では日射による過熱、冷放射、冷気流やグレア(輝度差と眩しさ)などの発生も懸念され、安定性に欠ける(温湿度については別報参照)。

なお、どの施術空間においても、施術の際は理美容専用のいすやシャンプーいすを使用することはなく、利用者の使用している車椅子が施設にあるリビング椅子を施術椅子代わりにして施術が行われていた。このため、施術者は通常の施術姿勢よりも低い姿勢で施術を行わなければならない、施術者の腰などへの負担が大きいたことが観察された。シャンプー時には、簡易洗髪器や洗面台の高さにあわせて、いすの距離を変えたりクッションを敷いたりあるいは用具を使用して対応するなどの工夫が見られた(写真7)。

## (2) 空調設備

近年の空調設備は中央方式から個別方式への移行が進んでおり、温度制御性・省エネ性にも優れたものが増えている。本調査においても築年の新しい施設においては、天井付けのパッケージが主流であった。物理環境測定結果を用いた分析に詳細は譲るが、高齢者施設は感染症対策に敏感で、温度管理に齟齬は少ない。既往調査<sup>1)</sup>によると、湿度管理や換気量確保に基準設定や管理が十分でない場合も未だ多く、特に狭い部屋に在室者が集中したり、共用の廊下を用いる場合には当初設計想定と乖離が生じやすく、空気質管理などに注意が必要である。

## (3) 照明設備

照明設備は窓などの開口配置と室用途に配慮して設計される。先に触れたように、脱衣や通行のために設けられた空間からの転用においても、一般理容所・美容所の施設基準100ルクスの照度確保は難しくないが、自然光の輝度・照度調整にはブラインドやカーテンを活用するなど設計的配慮が欠かせない。

## (4) 仕上げ

仕上げ材料の選択は汚物、液体等の清掃性に係り、衛生確保を図るうえで非常に重要な項目である。施行規則の「床および腰板」にはコンクリート、タイル、リノリウムあるいは板等の不浸透性材料が指定されており、本調査対象においても施設3の脱衣室(ゴザ状PVC床)および施設5-1の個室(ゴザ状合成樹脂床)を除き、それを満足している。ゴザ状の床材は、湿潤には耐えるが清掃が不十分になるおそれがある。

また、建築仕上げとは離れるが出張理美容においてはシートを敷設して施術する場合があった(写真8)。本調査においては、施設4の一部と施設5-1の一部に使用されており、床の保護や汚物・毛髪の散乱防止、清掃のしやすさが意図されている。

## (5) 作業空間

理容所・美容所の開設に係る仕様基準には、先に触れた照度や温熱・換気、衛生設備等と並んで面積と空間設計に係る項目がある。

その要件としては「外界からの隔離・区画確保」「衛生害虫獣からの防護」「待合所、作業空間、休憩室の確保と分離」「器具消毒・保管場所・従業者専用手洗い設備、便所と専用手洗い設備の設置」「床仕上げ材制限」「換気確保」「ふた付き汚物箱または毛髪箱」などがある。また、作業空間の面積についてはさらに施行令により地方行政庁の条例に委ねられているためそ

の基準は一律ではない。多くの都道府県において総作業空間の最小面積と、席(脚)当たりの最小面積が規定され、前者は概ね2席を想定して10~12㎡程度、後者は2~4㎡程度となっているが、各地の経済・文化等の状況に依存する面が大きい。

表3-2Aの「面積」欄に記したとおり、単位の最小面積は確保されているものの、施術者一人当たりの面積(内法基準)は、概ね5~10㎡の範囲にある。この値は多くの備付什器(ロッカー、会議机、洗面台等)に占居された床面を含んでいる場合があり、実際には店舗の場合より窮屈な姿勢で施術している様子が観察されている。

なお、開設された店舗等との最大の相違点は、消毒機器や収納のための空間が予め用意されておらず、もっぱら出張施術者が持ち込んだ収納箱やスーツケースに依存している点である(写真9)。それらは施術者が施術空間まで搬送し、利用できる状態に展開し終了後はまた収納しなくてはならないことから多くの手間と時間を要している。施術者側はそれぞれ工夫を凝らして対応しているが、効率あるいは経済性の点でも、衛生面でも改善の余地がある要素と考えられる。

#### (6) 待合空間

出張理美容においては、施設側が適切なスケジュールを用意して利用者を適宜、施術空間に導くことができれば、施行令に規定されているような待合空間(待合所)の設置は最小化できるはずである。しかし、現場での観察によれば予め作成した時間表通り正確に進行させることは、利用者や施設側の都合、あるいは施術時間のばらつきなどから難しい。利用者の要求や施術者の技量で待ち時間が長くなることもあれば予測より早く進行する場合もあり、施術者一人につき1名程度の待合者を持つことがシ

ステムの効率を保つ上でも必要と見受けられた。

#### (7) 居室のベッド上での施術

高齢者施設においては、個室からの移動に耐えない場合や、施術を受けるための姿勢維持が困難な場合など様々な理由から、用意された空間に移動し理美容の施術を受けることが難しい状況が出現する。その理由はたんに要介護度が高いなどだけではなく多様なため、重要な措置として対処する必要がある(写真10)。

ベッド上での施術について、観察あるいは施術者からの聞き取りで指摘された課題は主に次の3点である。

##### 施術の長時間化

移動、施術、清掃等に時間を要して作業効率が低下する。

姿勢保持・変更の困難に係る労力と人件費  
姿勢の維持・変更に補助者を必要とする上、意思疎通が難しい場合が多く、技術的に困難なうえ経費もかさむ。

##### 衛生の維持(環境設定・清掃等の困難)

出向いた居室に応じて温度・空気質・照度等の管理に配慮が必要となる上、清掃等状況に応じて適切に行うことが難しい。

#### D. 考察

今回のような高齢者施設への出張理美容には、施術者の人材・組織と適切な施術空間の確保、施設運営側と施術者の連携などが不可欠である。しかし、施術者側は予てから社会奉仕的な形がかかわってきた経緯もあり、これらが十分に確立できていない部分が見受けられた。

一方、ハード面では、専用空間の整備促進、消毒や衛生措置に係る機器・装備の改善などに課題が見られる。器具の消毒や準備・搬送等に関しては、今回の調査では十分に把握することができなかったが、その整備には初期投資が負担となる可能性がある。

また、施設側と出張施術者の関係性についても未解明な点がある。介護の視点から見ても施設にとって理美容は必要なサービスであるが、事業として理美容サービスを実施するにあたっては、施設側と出張施術者の間には顧客を提供する側と営業を行う側という立場の違いがある。とくに居室ベッド上での施術では、料金や支援など吟味が不十分な点が見られ、さらに明確な整理が必要と考えられる。

#### E . 結論

首都圏の6高齢者施設の10空間において出張理美容に関する聞き取り調査および観察を行い、現状の課題と問題点を明らかにした。

出張理美容を受け入れる施設側のハード・ソフトが整備されていない場合も多く、建築環境の観点から改善の余地が指摘された。

また、本来用途以外の室を使用している場合の課題と要件についても検討した。

#### 謝辞

本調査では、多くの高齢者施設関係者、そこに入居されている利用者ならびに施術者の方々から調査に協力を賜りました。

また、(有)建築工房匠屋の大崎元氏には、施設における建築調査並びに図面作成にご協力いただきました。

ここに記して感謝の意を表します。

#### F . 研究発表

なし

#### G .知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

なし

#### 【参考文献】

1) 阪東美智子, 金勲, 大澤元毅 . 特別養護老人ホームにおける環境衛生管理の現状と課題 . 保健医療科学 2014 ; 63 ( 4 ) : 359-367.

表1 調査対象施設の概要

施設 ID	施設の種類	事業開始年	定員	構造	階数	延床面積	参照平面図
施設 1	地域密着型特別養護老人ホーム(地域密着型介護老人福祉施設)	2012年	20名	RC造	地上2階	1,943 m <sup>2</sup> > 約2千	地域交流室
施設 2	有料老人ホーム	2010年	29名	鉄骨造	地上3階	1,074 m <sup>2</sup> > 約1千	脱衣室
施設 3	介護老人保健施設	1988年 2012年に 新築移転	50名	RC造	地上2階	2,969 m <sup>2</sup> > 約3千	理美容室 廊下
施設 4	特別養護老人ホーム (介護老人福祉施設)	1977年 2002年に 新築移転	100名	RC造	地上4階	6,106 m <sup>2</sup> > 約6千	理美容室
施設 5 - 1	有料老人ホーム	2011年	99名	RC造	地下1階、 地上6階	4,982 m <sup>2</sup> > 約5千	脱衣室
施設 5 - 2	有料老人ホーム	2011年	94名	RC造	地下1階、 地上6階	4,647 m <sup>2</sup> > 約5千	居室 (個室)
施設 6 - 1	特別養護老人ホーム (介護老人福祉施設)	1985年	80名	RC造	地下1階、 地上3階	4,092 m <sup>2</sup> > 約4千	廊下
施設 6 - 2	特別養護老人ホーム (介護老人福祉施設)	1970年	99名	RC造	地上4階	5,432 m <sup>2</sup> > 約5千	談話コーナー 居室 (4人部屋)



写真1 理美容室として整備された室



写真2 脱衣室で施術を行っている例

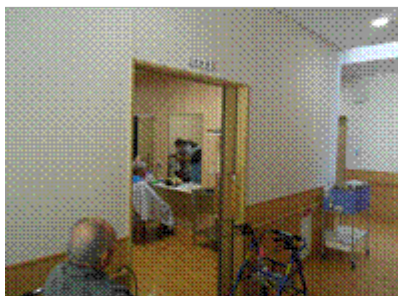


写真3 廊下を待合として利用している例

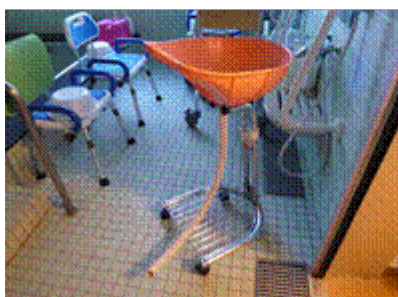


写真4 ポータブルの簡易洗髪器



写真5 脱衣室に設置された洗髪洗面器



写真6 廊下での施術と清掃



写真7 シャンプー時に使用する被布



写真8 床に敷設するシート

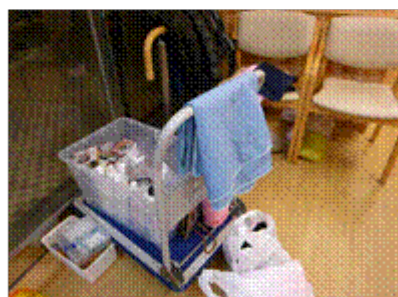


写真9 施術者が持込んだ施術道具の一部



写真10 ベッド上で施術を行っている例

表2 - A 高齢者出張理美容調査結果の概略（前半）

施設ID	理美容の別	理美容師の人数	利用者の人数	施設職員の人数	施術場所	面積(内法)	床材	シートの利用	換気設備		採光窓		照明		水道	
										使用状況		開閉状況		使用状況		使用状況
1	理容	3	14	2-3 (清掃、一部送迎)	地域交流室 (旧リハビリ室)	27.1㎡	フローリング	なし	あり (天井ダクト扇)	ON	あり(アルミ引込サッシ窓)	閉	あり	ON	あり	あり (用具への水足しのみ)
2	理容	2	13-14	0	脱衣室 浴室(シャンプー時)	12.5㎡	合成樹脂 (ござ状PVCシート)	なし	あり (天井ダクト扇)	常時ON (24時間対応)	あり(アルミサッシ上下2段、上段排煙)	閉	あり	ON	あり	あり (浴室でシャンプー、器具洗浄)
3	理容	3	44-45	1 (清掃、一部送迎)	理美容室	17.7㎡	合成樹脂 (PVCシート)	なし	あり (天井ダクト扇)	常時ON	あり(アルミ片開きサッシ窓)	閉	あり	ON	あり	あり (キッチン台利用、タオル、器具の洗浄)
	理容	3			廊下	15.5㎡	合成樹脂 (PVCシート)	なし	なし	なし	あり (上部排煙アルミ内窓、アルミ片引込テラスサッシ)	閉	あり	ON	なし	
4	美容	2+1(補助)	22	1-3 (一部送迎、見守り)	理美容室	11.4㎡	コンクリート、 フローリング直張り	あり (美容師による)	あり	常時ON	あり (木製3連引違戸)	閉	あり	ON	あり	あり (洗面洗髪台でシャンプー)
5-1	理容・美容	2	13	0	脱衣室(地下1F)	20.8㎡	合成樹脂 (ござ状PVCシート)	あり (美容師による)	あり	常時ON (ロスナイ)	あり (ドライエリア側にアルミ2段引違テラスサッシ、アルミ2段FIXサッシ)	閉	あり	ON	あり	あり (洗髪洗面器でシャンプー)
5-2	美容	1	1	1 (体を起こすまでの介助)	入居者の居室 (個室)のベッド上	11.4㎡	板・フローリング	なし	あり (トイレ)	常時ON (24時間対応)	あり (アルミ引違テラスサッシ)	閉	あり	ON	あり	なし
6-1	美容	3	3人ずつ	0	廊下(2F隅)	21.5㎡	フローリング	なし	なし		あり (アルミ引違テラスサッシ)	閉 レースカーテン	あり	ON	なし	
6-2	美容	1	1	0	談話コーナー	8.1㎡	合成樹脂	なし	あり	常時ON	あり (木製框ガラス戸)	閉 カーテン	あり	ON	なし	
	美容	2人×2 (利用者1人につき2人)	4人部屋 のうちの2人	0	入居者の居室 (4床室)のベッド上	8.1㎡	フローリング	なし	あり	常時ON	なし		あり	ON	あり	なし

表2 - B 高齢者出張理美容調査結果の概略（後半）

施設ID	洗面台		冷房設備		暖房設備		汚物箱・毛髪箱		鏡		作業いす		器具・備品		備考
	あり	なし	あり	使用状況	あり	使用状況	あり	使用状況	あり	使用状況・備付方法	いす数	種類	施設側準備	事業者持込	
1	あり	なし	あり (天井カセットエアコン)	OFF	あり (天井カセットエアコン)	ON	あり	あり(毛髪、汚水)	あり	あり 壁一面に全面(床から天井)張り	3	車いす	会議室用机、延長コードドラム、汚物入れ、ゴミ箱、施術用具棚台(可動)×2、電気ポット	タオル蒸器、手元用具4、ドライヤー、タオル	施設職員がゴミ、毛髪等を清掃。
2	あり	なし	あり (壁掛エアコン)	OFF	あり (壁掛エアコン)	ON (設定24)	なし	ビニール袋に直接入れる	あり	あり 卓上鏡、手持ち折り畳み三面鏡	2	リビング椅子(持込)、車いす	リビング椅子、ホットタオル器	ドライヤー、バリカン、専用セットBOX、ポータブル洗髪器	
3	なし		あり (天井カセットエアコン)	OFF	あり (天井カセットエアコン)	ON (設定26~28)	あり	あり	あり	あり 壁につくり付け	3	車いす、リビングいす	机(タオル置き用)、ゴミ箱、清掃車(ATOM)	ドライヤー、電気バリカン、手元小物入れ、理容道具	
	なし		あり (天井カセットエアコン)	OFF	あり (天井カセットエアコン)	ON	なし (ゴミ箱用意)		なし		3	車いす	会議用事務机2台、電気ポット、ゴミ箱、延長コード(ドラム式)	ドライヤー、電気バリカン、手元小物入れ、理容道具	
4	あり	あり (シャンプー)	あり (天井カセットエアコン)	OFF	あり (天井カセットエアコン)	ON	あり	なし	あり	あり 壁張り、全身鏡	4	シャンプー用1、木製2、回転1	全身鏡	シート 美容道具一式	
5-1	あり	あり (シャンプー)	あり (天井カセットエアコン、個別式)	OFF	あり (天井カセットエアコン、個別式)	ON (26、23に)	あり	なし	あり	あり 壁面に大型鏡2か所	通時2台(鏡前)、最大3台	車いす、リビングいす	脱衣室備品、リビング椅子5脚	美容道具一式	美容師が独自に用具を工夫(ほうき、シャンプー用被布)
5-2	あり(洗面台、流し台)	なし	あり (個別方式)	OFF	あり (個別方式)	OFF 全館用がON	なし		なし				なし	美容道具一式	
6-1	なし		あり (天井カセットエアコン)	OFF	あり (天井カセットエアコン)	ON	なし		あり	あり、床置き2台(大)、机上1台(小)	0、随時隣室から導入	車いす待合ソファあり	タオル	美容道具一式	病院1Fに理美容室があるが通常不使用(パーマ要望時のみ、洗面台での洗髪も実施)
6-2	なし		あり (天井カセットエアコン、集中管理)	OFF	あり (天井カセットエアコン、集中管理)	ON (26度設定)	なし		あり	あり、机上に台(小)	0	車いすのまま	タオル	美容道具一式	
	あり	なし	あり (天井カセットエアコン、集中管理)	OFF	あり (天井カセットエアコン、集中管理)	ON	なし		なし				タオル	美容道具一式	